

事務事業マネジメントシート(平成26年度実績と平成27年度計画)

平成28年 2月17日更新

事務事業名	地域住民グループ支援事業				<input checked="" type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり		所属部	健康福祉部	課長名 安武 祐次
体系	施策	16	高齢者の自立と社会参加の促進		所属課	高齢者支援課	担当者名 渡辺 良輔
	基本事業	47	高齢者の社会参加の促進		所属班	包括支援センター班	(内線) 2143
予算科目	会計	款	項	目	事業連番	法令根拠	介護保険法
	介護	11	1	2	10443 他		成果優先度評価結果 : ② コスト削減優先度評価結果 : -
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 26年度で終了 <input type="checkbox"/> 26年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)	

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景・きっかけ・今後の状況変化を含む)	地域福祉の高揚と要援護者の早期発見、社会的孤立の解消や心身機能の維持向上に資する活動を行っている地域住民グループへの支援を行う。運営者会議の実施、レクリエーション、講習会、サロン通信の発刊など地域住民グループへの支援サロンを開催している地区であれば自由に参加できる。社会福祉協議会が推進していた地域でのささえあい活動「生き生きサロン」が基盤となる。その後「介護予防・地域ささえあい事業」として国の補助事業となり平成12年度より開始した。団体数が年々増加している。サロンを運営しているボランティアの高齢化が課題である。
【業務の流れ】	事業は社会福祉協議会に委託。実績報告書の提出。委託料の支払い。
【主な予算費目】	委託料。
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	毎月の開催が楽しみ、サロンが生きがいとの声があり、なじみの関係ができてきた。サロンへの参加がない閉じこもりがちな方を、地域でどうささえていこうかが課題。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標	新規・拡充区分:
① 手段(主な活動) 26年度実績(26年度に行った主な活動) (DO)	27年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
社会福祉協議会が各地区単位でレクリエーション、講習会等のサロン事業に対する委託料。開催数385回。サロン数38ヶ所。	社会福祉協議会が各地区単位でレクリエーション、講習会等のサロン事業に対し、委託を行なう。
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由
→ ア: 講習会開催回数	委託事業所の人件費見直しに伴う委託料の増。
イ: サロン数	箇所
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
サロンを実施している地区の高齢者。	(単位) 人
	→ ア: サロンを実施している地区の高齢者数
	イ:
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
高齢者の社会的孤立感が解消される。	(単位) 人
	→ ア: 参加者の延べ人数
	イ:
*③成果指標設定の理由と27年度目標値設定の根拠	
サロンに参加することにより孤立感の解消や心身機能の維持向上につながるため。年々サロンの参加者数が増加しているため。	
総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0	

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	24年度 実績(決算)	25年度 実績(決算)	26年度 目標(当初予算)	26年度 実績(決算)	27年度 目標(当初予算)	28年度 予定	29年度 見込	30年度 見込	
① 活動指標	ア 回		5	3	8	3	8	8	8	8	
	イ 箇所		38	38	40	37	40	40	40	40	
② 対象指標	ア 人		1,406	1,453	1,410	1,582	1,420	1,430	1,440	1,450	
	イ										
③ 成果指標	ア 人		5,784	5,809	5,900	5,798	6,000	6,100	6,200	6,300	
	イ										
投資 入 費 量	財源内訳	国庫支出金	千円	1,639		3,684		3,944	1,897	1,897	
		都道府県支出金	千円	819		1,842		1,972	948	948	
		地方債	千円								
		その他	千円	3,277		7,366		7,884	3,793	3,793	
		繰入金	千円			1,842		1,972			
		一般財源	千円	819				950	950		
	(A) 事業費計	千円	6,554	0	14,734	0	15,772	7,588	7,588	0	
	(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
	(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0	0	
	正規職員従事人数	人	4	3	4	0	4	4	4	0	
	延べ業務時間	時間	60	50	60	0	60	60	60	0	
	(B) 人件費計	千円	244	199	239	0	239	239	239	0	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	6,798	199	14,973	0	16,011	7,827	7,827	0	

事務事業名	地域住民グループ支援事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	--------------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部 (SEE)

*原則は26年度の後評価、ただし複数年度事業は26年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①26年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input type="checkbox"/> 達成した <input checked="" type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】 周知も図られ、またボランティアの方も熱心に取り組んでいるため、参加者数自体23年度を上回ったが、講習会の回数とサロン数が思ったより伸びず達成できなかった。
	②27年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】 参加者は増加傾向にあるため。 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 市全域で開催できるようにする必要がある。 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 各サロン単位で事業を行っているため。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 住民の協力のもと行なっているため、必要最小限の事業費で行っている。
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 必要最小限で行なっているため。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 サロン開催は住民の自由であり、開催の為の助成を受けることができるので、受益機会は均等である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 サロンに参加することで、地域の高齢者の孤立感の解消等に繋がっているため、行政が支援することは適正である。

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

参加している人からは、毎月の開催が楽しみ、サロンが生きがいとの声があり、なじみの関係ができてきた。サロンへの参加がない閉じこもりがちの方を地域でどうささえていくか、地域による差をどう埋めていくかが今後の課題。

4 今後の方向性(事務事業担当課案) (PLAN)

<p>(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/>事業のやり方改善(有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/>事業のやり方改善(公平性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策</p>																						